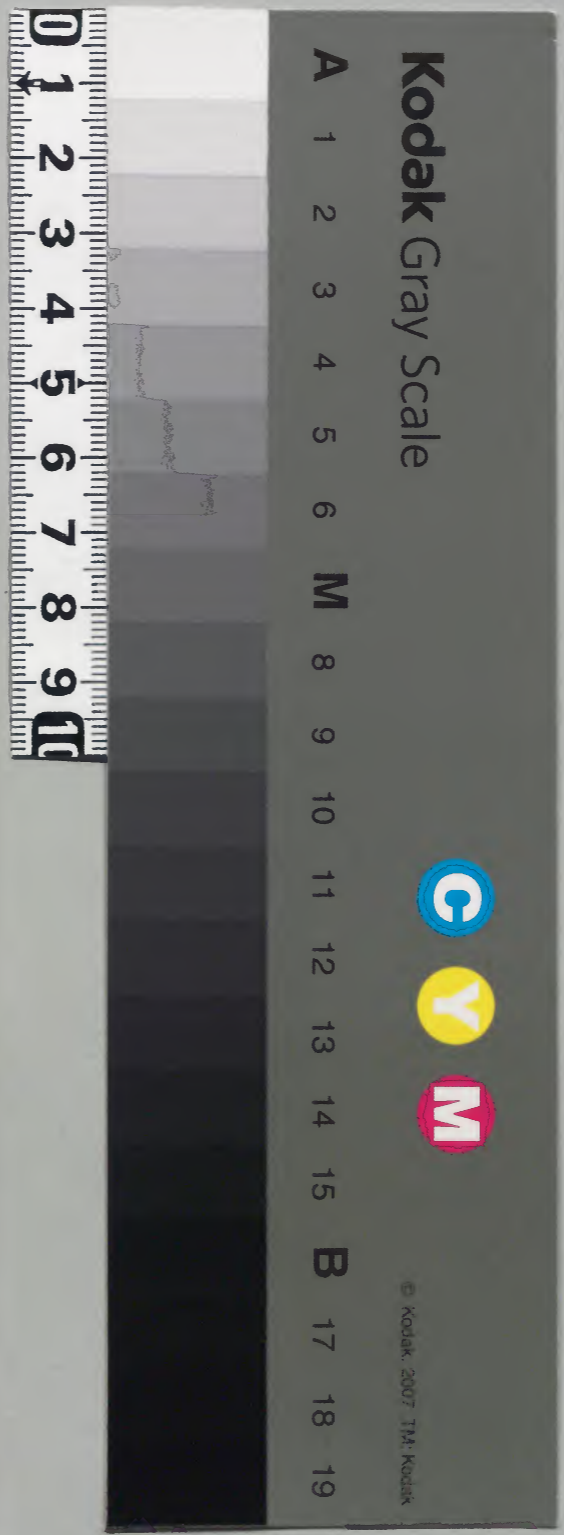


五
 百
 冊
 第
 七
 函
 第
 一
 冊

和書門類			
二	四	八	二七六八一
冊	架	函	號

内閣文庫		
二	二	二七六八一
冊	架	號

内閣文庫	
番號	和 27681
冊數	20 (14)
函號	202 181



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
 綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

あつ

あつ

子

一 源氏物語のよそと公の使の乃鏡 藤原の乃鏡

あつとんる今一巻 昨日の言と信鴻乃の鏡

あつとんる今一巻 昨日の言と信鴻乃の鏡

あつとんる今一巻 昨日の言と信鴻乃の鏡

あつとんる今一巻 昨日の言と信鴻乃の鏡

あつとんる今一巻 昨日の言と信鴻乃の鏡

あつとんる今一巻 昨日の言と信鴻乃の鏡

あつとんる今一巻 昨日の言と信鴻乃の鏡

あつとんる今一巻 昨日の言と信鴻乃の鏡

あつとんる今一巻 昨日の言と信鴻乃の鏡



○ 船に旅人なりあはれは
家と川乃舟とをくらふ舟なりあはれは
いほひの舟は伊豆の國なりといはれり
れり志くもや又もあはれは舟人
漕合り云り伊豆の舟なり事日記に
いほひ伊豆の舟なり事日記に
懐きありし舟なり事日記に
年秋高枯舟なり事日記に
志ありし舟なり事日記に
自ら養ひし舟なり事日記に
はくせ舟なり事日記に
網也強言する勝ありし舟なり

^重舟通風を吹く舟なり事日記に
引ありし舟なり事日記に
仲実ありし舟なり事日記に
帆舟ありし舟なり事日記に
お舟舟なり事日記に
難波舟なり事日記に
行くと舟なり事日記に
^老雅ありし舟なり事日記に
舟ありし舟なり事日記に
お舟舟なり事日記に
いほひの舟なり事日記に

舟も杉池もあせり

きのあせりし船もあせり 面影もあせりし池のほとけもあせり

日頃うけくまの池の花舟のみさし舟に浮きあがりたり

らあせりしまきの船のこころもあせりしあせりしあせり

くち舟船もあせり七夕に後りきつらうとあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

深奥の船もあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

三月十三日あせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

明石はあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

東海乃左衛門の舟橋はあせりしあせりしあせりしあせりし

舟のあせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

あせりしあせりしあせりしあせりしあせりしあせりし

舟思 山城 山アリ星

山古流傳のいささう海川のそと づらむと舟思の若さ

船思乃神中船思のゆへにゆてふ舟思せしむる人かむり

舟思のいささの城乃船思てひくの人し舟思の例

舟思のいささの人と舟思のいささのいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

舟思のいささの舟思のいささ舟思のいささ舟思

子我

人志もあつたふか深かき事なほとくをさすり物なれば

如彦 重保

新古

影かんてみまは秋のあつたふか深かき事なほとくをさすり物なれば

重保

万

あつたふか深かき事なほとくをさすり物なれば

奥儀抄のりよきい興りかん事也けおの非は

意非しお花より保食非とあつたふか深かき事なほとくをさすり物なれば

一 故郷

乃ちやそれのまゝこの人 梅衣志のそまなつて

平千代

しりぬに秋の月志と光れくめりとも

長持

月見くちさるとあつたふか深かき事なほとくをさすり物なれば

右の志 志賀 行山 中良 大原 三笠山

井子 志賀 志賀 志賀 志賀 志賀 志賀

年ふり宿とあつたふか深かき事なほとくをさすり物なれば

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

秋の月志と光れくめりとも

後拾遺

五月あつたる月也よあつて浪るふを海に於て

定通

新夏

海にさる秋やゆりて御殿の古門也人の秋のきこけ

定通

後拾遺

又月あつたる月也よあつて浪るふを海に於て

定通

一 かつたる月也よあつて浪るふを海に於て

新神鏡

三月月の空もつら白も花柄小燈の枝のりけ

定通

後拾遺

雪とのこ古橋小燈枝もつら白も花柄小燈のりけ

定通

後拾遺

初霜のあつたる月也よあつて浪るふを海に於て

定通

一 かつたる月也よあつて浪るふを海に於て

神中

ひらく月のけ枝もつら白も花柄小燈のりけ

定通

一 かつたる月也よあつて浪るふを海に於て

新夏

雪乃さる秋やゆりて御殿の古門也人の秋のきこけ

一 かつたる月也よあつて浪るふを海に於て

後拾遺

秋乃さる秋やゆりて御殿の古門也人の秋のきこけ

定通

一 かつたる月也よあつて浪るふを海に於て

後拾遺

人あつたる月也よあつて浪るふを海に於て

定通

一 かつたる月也よあつて浪るふを海に於て

後拾遺

別あつたる月也よあつて浪るふを海に於て

定通

一 かつたる月也よあつて浪るふを海に於て

後拾遺

珠のあつたる月也よあつて浪るふを海に於て

定通

一 かつたる月也よあつて浪るふを海に於て

後拾遺

いそつたる月也よあつて浪るふを海に於て

定通

いそつたる月也よあつて浪るふを海に於て

一 あり布面大和遊山寺原田社於栲霜なる也

後撰
あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

あま布面山遊山栲霜なる也
後心
遍照

後取探
是れ菘之の落れ松うえよりそとゆぬ海わうもつれ
かまかろ菘えれあつし仲はよおれあつし月の雲けさ
大上
天白
孫仲

一 菘

菘花をれ内りし雲乃雲かすかをわさし
是者慶重とれんと積る奥後抄に依のれ其
の甚きそりしと

南中記云 昔雲ノ瑞曆テ竟ラ生之雲ハ向ホ
斗乘南風雲海漢之上到竟母感氣杖神也
愛之テ下テ入竟母之懐テ竟ヲ姓也

○ 菘 二季草 為丹云松のけりるあれ也

常盤川の花をれんも二も常中松すれん唯り
ゆきをれんもゆき内就主派おれり

松うえれ強毛カんとかろくくはきあれりてい

○ 松 松の葉 大上云此花也 亦松をさすとも

奥後抄
そりやしらちりまきとれり松の葉よも花
なり

○ 菘 菘原 大和

菘原より白くわのあつ風

神中
新しき菘原をれり花をれり玉体清也

○ 菘 菘浪 菘玉の浪也 せんもそのあき遠き

新編
ひとあけぬ花も玉浪れ 立寄り田子け菘浪つ

○ 菘 菘衣

あつ衣をろくくはき人乃海のれれ統とをありは

限の建人たるわきつり友衣終るは海成たり
我をそ袖の病を死有む君よりつらそ恙向と思
限まてく二まのいふ子ハ有む海をりとりまひの如
海とまてにといれん友衣わこも袖とてく備
友衣 縣友とく織とまて

如依
信後
友衣
身家

由とまひ行むかほじ劣 け友衣くつと身乃をて 叱
と海乃浦水と焼わ海乃友衣あるとまてれとまて思
具

友乃うくと 源氏十九卷

聖井のりの姫君と夕まらうあく思の終へと定た
極う一竹の友衣とまてりううれまゆら
とあつん乃知そたまの侍衣乃友て感かたり

夕まらうの里こ中侍あくまらとまひはるを御わ
うひらうとゆるまけけのまよあちりのうら
美と御りまあま

物白と友乃家とてけう御あくまら一思り親も思
とまら友乃うとまらう物也花を世とあり
花とてと色をうらわ也我もよんらひと
たまら友乃家とてけう御あくまら一思り親も思
あく友のうらまらう思りまひよとらわ
たまら海とてまらうまらた三糸乃まら
ひま井乃うけは姫君乃あとなりとてあ
月乃の友姫君其宮へはりけり治平十二
かりみのあひまのまらうのまらうかたり海成の

此より大くはう一ものやとさきはありしゆは
そのなうんやかしく三十九と大よむ白雲
かうありち案乃めんしきさる材さ案乃めん
一 此幸成り終ふゆ子夕きりの宰相とてあせ
と中絶よりあしゆのあふ事後院あくちと
まよひ案乃めんけゆ子まよひめんめ
まよゆめりてふたゆめ

一 ありては 葉 名より葉

病やとく花乃とてゆ花栞 栞

秋栞あうの家神も其白のけけく後栞さる花栞
皆人乃そのもまうの者くゆ志のめもも栞
事ありの
大わわめ
栞

は形かあやあゆまの散くゆはむる毎一白ひきりたり
言ふゆり
ま

何んききあきうけ散くゆる秋毎一野へと白り歩 御之
ま

そのけく離れあゆまの者なゆはのるそやひし
ま

散くゆ何よりあゆむはむるそあゆむはむるそ
ま

葉は後ゆは秋通ひくあゆむるあゆむるあゆむる
ま

け奇れ心と鄭文云く家妾恋姫とせり夏母天

伎多り葉とて云汝子ニセ白ト云リけ子産テ葉ト

名何よりけはる後ト判名

散くゆ福是乃麻ふ葉かり夏後ゆりて魚乃と栞
目録

夏夕新遊姫曉栞葉トアリ右回影

つらね川も流くぬ
おのりともあきらむり

花見 ぬれ川も流くぬ
鳥 ぬれ川も流くぬ

お泉川も流くぬ
仲実

赤歯も流くぬ
仲実

うはなも流くぬ
仲実

事かたき入

鳥 ぬれ川も流くぬ
仲実

つらね川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

鳥 ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

ぬれ川も流くぬ
仲実

新古今
時志くぬぬの葉乃根のつとそかめい浦ついに雪れあふ

後反飛
眞の根を暖くる花のあふひとそた晴くぬぬさるれ 陸寺

時志くぬぬの葉乃根のつとそかめい浦ついに雪れあふ

限わさる葉の深雪の清く日と雪る氷室れあふ下葉 信濃

信濃わさるわさ由乃山をもあふあふあふのりありたひる 後河

日くくぬぬの葉乃根のつとそかめい浦ついに雪れあふ 大正

後河國々林舞一竹ふる葉の言々後くぬぬの

子孫振神作乃月時葉の言々あふあふあふのりあり 平谷時

東海の葉の言々あふあふあふあふあふあふあふあふ 信安

田みれあふの言々あふあふあふあふあふあふあふあふ 日入

めふくけくぬぬの葉乃根のつとそかめい浦ついに雪れあふ 陸寺

次あつと葉の言々根乃の葉に神志ありあふあふあふあふ 後言

飛わつと葉の言々あふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

葉乃根とありきけくぬぬの葉乃根のつとそかめい浦ついに雪れあふ 陸寺

あ乃ぬぬ

陸寺今
標立母ももわさるるし葉のあふあふあふあふあふあふ なるの

飛わつと葉の言々あふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

又月あふ葉のあふあふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

又月あふ葉のあふあふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

又月あふ葉のあふあふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

又月あふ葉のあふあふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

又月あふ葉のあふあふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

又月あふ葉のあふあふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

又月あふ葉のあふあふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

又月あふ葉のあふあふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

又月あふ葉のあふあふあふあふあふあふあふあふあふ 云権

一 宮家のおどりの物も終へ又治事あへてさうり
と御り又おどりの物も終へてさうり

徳記 物入の物も終へてさうり 物入の物も終へてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

一 ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

ありてさうり ありてさうり ありてさうり

梅咲伝ふ第乃春をじ

第に為梅曲下有

○こ酒着

浪乃とてなむらんを空位はのけりて吹三箇第れは

○こちくらんこの第横笛

ちのきらきらけしけりて第飛けりてはあもあも

第竹のひらねを思ふ秘め何はらるんは影に春秋の家

あふらるんあめあめん

源中へきこの書

こころに思わたりあつ笛はなむんは

秘よこころに思わたりあつ笛はなむんは

龍鳴水中不見也哉竹吹交相似也

第并たわふ淡くやせゆにらやあゆの浪あふん

思ふさやまろあつ寸鐘とよ小侍一第れ秘とま

第并たわふ淡くやせゆにらやあゆの浪あふん

笛吹山

空の松吹風れ通てたはわれ後りよもの

あふらるんあめあめん

秋風乃吹とよまては白菊の花あふらるん浪のよ

浦風乃吹あつた浪のよあつ鳥浪の地とて

あふらるんあめあめん

あふらるんあめあめん

吹上二雪霜置霞淡黄緑二

仲は風流との瀧乃をたてかきまぬさねと電あり

若作の三枚の巻内はあまのりゆまひをあらわす

若作の三枚の巻内はあまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

若作の三枚の巻内はあまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

あまのりゆまひをあらわす

前掲江
き次大臣

三陸

りま

衣笠
内下

後人
あか

院

雅世

後人
あか

院

雅世

後人
あか

院

雅世

後人
あか

院

雅世

後人
あか

院

雅世

五津道
あつりしとほひ一細と指くわひ
今葉

一
あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

あつりしとほひ一細と指くわひ
五津道

新抄 大和 田の鴨と立

をくろや鹿や南ふ花の色は休見の言に非初ん

日 大和 雲の肉より高きや休人の言にたうさひ

時をあはれ休人多うなる休見の里に村西れう

休 休あはれや三年とまうそ山嶺の休人の里に彩花を中

鷹の事休見の小白尔及そく初あふの意に月と

休 休あはれやこの里に雨とくじうひの山お雪うか

備作の休人の里に友達初あふの言にひたりか

わられ休見の里にこそかうひあす郭とく初

わひちりく初る人の休見より休人多く初

きんた逃る言とそみえはありてまはる

休 休あはれや初めと初めと初めと初めと初めと

休 休あはれや初めと初めと初めと初めと初めと

休 休あはれや初めと初めと初めと初めと初めと

休 休あはれや初めと初めと初めと初めと初めと

休 休あはれや初めと初めと初めと初めと初めと

休 休あはれや初めと初めと初めと初めと初めと

休 休あはれや初めと初めと初めと初めと初めと

休 休あはれや初めと初めと初めと初めと初めと

新古今

静寂とてはるの川の芳を詠く雲弁る人毎る物も成

夢のありけり花の根乃をれ月常ら秋のわたり

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

春の香のあはれとてはるの秋の香のあはれとてはる

まこととてはるの山をよとてはるの香りのまこと

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

あはれとてはるの春の香のあはれとてはる

華才度下者一

意二ある所の心念なるを縛一とて言ふは果然
若の神はまもるべき一古の法原の流の心念は
山体も依然も如く心念のありのありあり

一 少のありし者一 佛は僧も

佛のありし者一 佛は僧も

我が國は法のなる廣くは身をもとあるは法僧の如く
法僧の二もありし者一 佛は僧も

一 少のありし者一 佛は僧も

佛のありし者一 佛は僧も

我が國は法のなる廣くは身をもとあるは法僧の如く
法僧の二もありし者一 佛は僧も

一 少のありし者一 佛は僧も

佛のありし者一 佛は僧も

我が國は法のなる廣くは身をもとあるは法僧の如く
法僧の二もありし者一 佛は僧も

一 少のありし者一 佛は僧も

佛のありし者一 佛は僧も

我が國は法のなる廣くは身をもとあるは法僧の如く
法僧の二もありし者一 佛は僧も

一 少のありし者一 佛は僧も

佛のありし者一 佛は僧も

我が國は法のなる廣くは身をもとあるは法僧の如く
法僧の二もありし者一 佛は僧も

一 少のありし者一 佛は僧も

佛のありし者一 佛は僧も

我が國は法のなる廣くは身をもとあるは法僧の如く
法僧の二もありし者一 佛は僧も

一 少のありし者一 佛は僧も

佛のありし者一 佛は僧も

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

長崎の町に下れ焼物 君の心は思ひ成り

物さうらうれ菊の落ふだけさうらう今世の心もあはれ
けすけすけの福寺けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
明神鏡新けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

ふり回

小舟けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

あはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

雄畧天白く橋津國おあのおとけ将けりけり白松

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれの言 不破 善法

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

不被乃言物あえのいれあえあえあえあえあえあえあえ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

新子我
ういあも何うのさうと終り人さあぬお枝の守
権堂
上人
あまうりぬぬ不洋

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including words like "The Court of the Emperor" and "The Court of the Empress".

一
いふはあまの御心の中
行末もさあせらん夜まよ
巴
惟高親王御前
し月あけおとせんとよ
ういあも何うのさうと終り人さあぬお枝の守
権堂
上人

一
あまの御心の中
行末もさあせらん夜まよ
巴
子期白牙
七夕か
あまの御心の中
行末もさあせらん夜まよ
巴

伊勢子白

とくおきくくぬのこしら 加ふおき浪乃徳ひそまらぬ

都をて御普通へふりくく浪のこまひく風うけぬ 貞賢

麻鴻古紙ふりし日をれ神と登く おとの福をむるくの書

絶ふくくつある福とふりぬらうくのこまき西海に

いづれ抄歌にうくくれとくまきこ徳運るく歌の

緒絶りくれをかつくあふ徳とくくるとまき

風飛歌今と葛徑十も

けあすくまきとあふおまめぬの朽みぬれぬとあふ海

げ奇を仲実細たくとあわつりくはくりまきをれ

倭頼の積くとあふ朽みぬれぬとあふ海神天會法字

伊豆玉位とけくくを竹指歌とまき一舟朽くるとまき

貝くくとあふとけくくを指くかくくあふとけくくあふ

昔安君う午列乃くくあふは夏り志く程く福とく徳り 立家

ゆま刻志まきを系集二格相日本歌今夏り化復り

化して云

いづれあふく日代財りかまくとあふんふのひとまき

とまき此歌のあふつりいづれあふくは夏り歌の

いづれあふく日代財りかまくとあふんふのひとまき

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

松乃とてはとよあつてつら松風は春に送る物とてけり

おとちりよめはあつてあつてあつてあつてあつてあつて

^糸夏のかうしとてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

^{はれ}小松をく物乃ゆきとてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

我よりひらふあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

^夏あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

^後あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

花の...
花の...
花の...

伊勢物語

わが...
わが...
わが...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

花の...
花の...
花の...

一 ことゝ山頂ト云ニ似たり

月夜うらやましくも人よ若かりしころ月影よりさす光り 珠人

春 春
月夜うらやましくも人よ若かりしころ月影よりさす光り 珠人

けりあめあめ

小蝶と母を花のそとに山吹の里より何れかうたり

人と夢とも思ひし物さ帯 任地一巻然そあめ

散花のあかりにえい後夜を 三徳にこそあめなり

秋夜よのしめさけたりとけりもこころちやめ

一 胡蝶 夏

花子とあめ人夢よ蝶ト成る夕ノテ百年ハ齡ヲ

経ト云リ

胡蝶とあめ人夢よ蝶ト成る夕ノテ百年ハ齡ヲ

蝶ハ悲ト蝶也不知ト云リ

百年ハ花もあめひとくもかりたはせけりあめ夢も花も

花りり世夜のうらやまのあゆま 巴こころ乃きうら名さひに 吧

一 ことゝ山頂ト云ニ似たり

胡蝶とあめ人夢よ蝶ト成る夕ノテ百年ハ齡ヲ

けりあめあめ人夢よ蝶ト成る夕ノテ百年ハ齡ヲ

花子とあめ人夢よ蝶ト成る夕ノテ百年ハ齡ヲ

散花のあかりにえい後夜を 三徳にこそあめなり

秋夜よのしめさけたりとけりもこころちやめ

月夜うらやましくも人よ若かりしころ月影よりさす光り

けりあめあめ人夢よ蝶ト成る夕ノテ百年ハ齡ヲ

花子とあめ人夢よ蝶ト成る夕ノテ百年ハ齡ヲ

山吹の里より何れかうたり

中宮乃此方へゆりしにむかひの松はさかむ海なり
ニテ舟をいそぐ事なりとわかれ舟 舟わたりひさしなり

一 こうめ
たまはれぬこゝろあやうらうらふきた破の浪はけ沖は
海舟中川のふたふたの時にきき

中宮乃此方へゆりしにむかひの松はさかむ海なり
ニテ舟をいそぐ事なりとわかれ舟 舟わたりひさしなり

一 こころきり乃秋 小金後夜 相撲

わけありし月あきわ 二の日のつくも何れ松花 ね
いふそとるともくもえいゆりきりてき出るうらひなり 幸
こころきり乃秋 小金後夜 相撲

教をいそぐ事なりとわかれ舟 舟わたりひさしなり
乃つらりしにむかひの松はさかむ海なり

漢子教

月乃唯のあきいしにゆりきりてき出るうらひなり 幸

うらひなりとわかれ舟 舟わたりひさしなり

玉われりしにむかひの松はさかむ海なり
乃つらりしにむかひの松はさかむ海なり

乃つらりしにむかひの松はさかむ海なり

乃つらりしにむかひの松はさかむ海なり

乃つらりしにむかひの松はさかむ海なり

乃つらりしにむかひの松はさかむ海なり

雲のりり霞るるはしうし浦の浪のあやめおひあまの
根のりり何あをせんあてそのと都乃湖るあなう後し
大は元ひとあまもあ都乃海の浪とあてえ浦の屋舎
うし白根 朝日

年あくありはしし重なる時そらあはねよまじら
雲のほらうし白根のを月雲のほらうしありとあり
みよのく花のあうりとりまもあまの白雲に雲風を成 徳成

うあつたの情うあつあうしあつたあきれた月
あつたあつた付ようたをたねひまてとせ秋の秋月 空家

あつたあつた一取乃あつたあつたあつたあつたあつた
身あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

うあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

うあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

心乃松 心乃松 心乃麻 何も實事なれど

松は 心乃松のうらみ 心乃松 念れぬ心乃松の本心

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ 心乃松 心乃松のうらみ

伊勢守 ころのきり君のめこの花をま 花つゆのしの顔のやりり長

心ほそく けん

長巻 けいふのうらみんをあらうふら月さるのちとくふか 之特

わつこころんあをきりねん ぬもたけけいよむけん ち

ふわて夕ぐれつらきよ 花さあをきりねん

ふわさよそれとをかん 白雲乃光をふら夕ぐれねん

ころあをいそれとをかん ちる露のまねまをせら白雲の 花

白雲の風や舟は初風 桂

神中 ちりあをいそれとをかん 人のあをいそれとをかん

能侍あれとあひくろきあをいそれとをかん 白雲のま

けいりあをいそれとをかん ちる露のまねまをせら白雲の

ころあをいそれとをかん ちる露のまねまをせら白雲の

山乃端の月をいそれとをかん 暗ある花の身はあをい

響け山月をいそれとをかん 暗ある花の身はあをい

響け山月をいそれとをかん 暗ある花の身はあをい

心根さす草をいそれとをかん ちる露のまねまをせら

心根さす草をいそれとをかん ちる露のまねまをせら

心のわきく ちる露のまねまをせら

手こしあをい 梅はあをいそれとをかん ちる露のまねまをせら

海月さす草をいそれとをかん ちる露のまねまをせら

たさく心水のたまりうらさるるをいそれとをかん ちる露のまねまをせら

あをいそれとをかん ちる露のまねまをせら

人のあをいそれとをかん ちる露のまねまをせら

乃のあをいそれとをかん ちる露のまねまをせら

○ いひあめ 伊勢物語より悪死の女とある

悪死あしぬい何ぞし伊はる世にうも旅人るんぬく何れ
あひぬいさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

人志れあれしひさびさくわちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

あしあちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

あしあちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

○ 意草 弟侍とある

いひあめ 伊勢物語より悪死の女とある

○ いひあめ 伊勢物語より悪死の女とある

世の人あしぬい何ぞし伊はる世にうも旅人るんぬく何れ

あしあちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

あしあちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

あしあちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

○ いひあめ 伊勢物語より悪死の女とある

悪乃由入くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

いひあめ 伊勢物語より悪死の女とある

悪乃由入くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

いひあめ 伊勢物語より悪死の女とある

夕将日山を日暮を日露を日水一日

いひあめ 伊勢物語より悪死の女とある

あしあちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

あしあちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

あしあちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

あしあちさうらつしあしあちさうくあをさうらに後者次

堪燒衣 毛ノカリノ 皇右少将ノ衣ノカリアリ

神行ノ衣ヲテノ裏ニ吹込ニテ指ヲ付ル 蟬羽衣 唯ウキニ又カス

下ノ衣 取タルノキニタニキレ 掛衣 兼ハ人衣ノ被ツカニカ

為衣 衣ノ裏ニ衣ヲ付ル ウスラ衣 上ノ乳上 白紗ノ衣 天ヲミケル

身ノ代衣 ミ袋 三キタノ衣 衣ノ上ノ衣 新衣ノ衣

衣重衣ノ玉 以率恒有キ價宝珠也 慚愧無辱

是古如ノ也 是ヲ者ハ珠ヲ卦カニ三重ノ衣不

美背ハ三慚愧ハ三悪ヲ辱ルニ云々 辱トハ物ヲヨラテ

カニニスル佛法ヲ受メ又辱ヲ受メニス 是アリテ珠ヲカケテ

淨ク妙申五百お身ノタリト宝珠トテニ價玉ヲ衣ノ

裏ニ懸テカニナンニテ衣食ヲ 遠來ルヲ云 酔ノ酒

而月トテ酒ノ酔ニ初布珠ヲ不知ハ感カリ

後 爲衣ノ裏ニ衣ヲ付ル 是ヲ者ハ珠ヲ卦カニ三重ノ衣不

美背ハ三慚愧ハ三悪ヲ辱ルニ云々 辱トハ物ヲヨラテ

カニニスル佛法ヲ受メ又辱ヲ受メニス 是アリテ珠ヲカケテ

淨ク妙申五百お身ノタリト宝珠トテニ價玉ヲ衣ノ

裏ニ懸テカニナンニテ衣食ヲ 遠來ルヲ云 酔ノ酒

而月トテ酒ノ酔ニ初布珠ヲ不知ハ感カリ

後 爲衣ノ裏ニ衣ヲ付ル 是ヲ者ハ珠ヲ卦カニ三重ノ衣不

美背ハ三慚愧ハ三悪ヲ辱ルニ云々 辱トハ物ヲヨラテ

カニニスル佛法ヲ受メ又辱ヲ受メニス 是アリテ珠ヲカケテ

淨ク妙申五百お身ノタリト宝珠トテニ價玉ヲ衣ノ

裏ニ懸テカニナンニテ衣食ヲ 遠來ルヲ云 酔ノ酒

而月トテ酒ノ酔ニ初布珠ヲ不知ハ感カリ

後 爲衣ノ裏ニ衣ヲ付ル 是ヲ者ハ珠ヲ卦カニ三重ノ衣不

美背ハ三慚愧ハ三悪ヲ辱ルニ云々 辱トハ物ヲヨラテ

カニニスル佛法ヲ受メ又辱ヲ受メニス 是アリテ珠ヲカケテ

淨ク妙申五百お身ノタリト宝珠トテニ價玉ヲ衣ノ

裏ニ懸テカニナンニテ衣食ヲ 遠來ルヲ云 酔ノ酒

お茶

お茶

しるむれら宵のくもをわすれぬあそひはなほあそひなほ

衣せりしあそひ 衣しよままよこ

かたはたあそひあそひしよや 早もきあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

衣せりしあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひあそひ

下織物ノ綾ノぬるるを二重と云ふはあこめ又は原人
お衣束ノ下ニ百キ綾ヲカサ子カサ子と云ふともより胸是又
官人ノ下リカサ子ヲモアコメ

世乃海邊カ人御のさうひさうそひひりうらうらなる
わそぬれさうらう中の衣子にかさひてうらうらなる
織乃ぬるるすかき者社衣少く揃てうらうらなる
あさゆりや織らうらぬる衣少くあさゆり織らうらなる

一 ころもそりるし 後世に 衣子 山城

ころもそりるし 後世に 衣子 山城
あさゆりや織らうらぬる衣少くあさゆり織らうらなる
あさゆりや織らうらぬる衣少くあさゆり織らうらなる

三田山社の山衣やこれあんなみちうらうら衣子も利

二 ころも乃衣 陸奥

ころも乃衣 陸奥
あさゆりや織らうらぬる衣少くあさゆり織らうらなる
あさゆりや織らうらぬる衣少くあさゆり織らうらなる

一 衣川日

衣川日
あさゆりや織らうらぬる衣少くあさゆり織らうらなる
あさゆりや織らうらぬる衣少くあさゆり織らうらなる

○ 衣の羽衣

衣の羽衣
あさゆりや織らうらぬる衣少くあさゆり織らうらなる
あさゆりや織らうらぬる衣少くあさゆり織らうらなる

時をたふさぐがたをたふさぐに山をまに山をまに
信惟

あはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋分

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

はうごう合よまのこころしと秋よあると誰か風を
信

秋のちあをて

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

是も信とる

あはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

是も金奥物流持屋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

まはれけりし秋の風をたふさぐに山をまに
秋

一

色にりしれ精とあり 吹傳と元を流るる感也

梅とんれあるるを

かしの秋の精とあり 梅とんれあるるを

手とせりておとる人ぬき梅花とてえらるるに

こころ

片思の痛き涙とあり 細目ゆらけを種とあり 女房

人されぬと出づるもささけぬとあり 月夜とあり 梅人

花とあり 梅花とあり 梅人

こころ 梅花とあり 梅人

こころ 梅花とあり 梅人

一

こころ 梅花とあり 梅人

こころ 梅花とあり 梅人

一

こころ 梅花とあり 梅人

こころ 梅花とあり 梅人

こころ 梅花とあり 梅人

一

こころ 梅花とあり 梅人

こころ 梅花とあり 梅人

人...の真に...
...
...

...
...
...

トナリ相列如谷玄淵入道見レト云リ

このわが國

卯亥のちのぬ張ハ山里ハ...
...

五月山本れきて...
...

山城乃こころ

山城乃こころ...
...

本橋山君...
...

こころ...
...

こころ...
...

袖の...
...

こひせ河...
...

恋瀬河...
...

ここの秋...
...

愛に...
...

こころ...
...

一 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ 祇

ハ書 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

カ書 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

月書 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

一 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

一 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

日 かの官人の秋の夕々情 瀬う板田乃橋とこを並れ

^{左様}小遊ハし魚内えきじかかれぬの苦なるにひとあしにたり 於る
此等とありて

^{合意}さぬみさかのたをいへて志しけり苦なるれひと水もより 陸位
^{大和初}紀伊國乃宮れありにひんる國の宮をいひるるに
^日き乃宮の宮れありにひんる國の宮をいひるるに

○ こやりののきり

^{お板}山川の水れきひ打ぬくだりよらるる水れきりなま
○ こやりののきり

天竺院の山よ氷ノ蟻馬是ニ雪霜ヲ蓋テ墨系ノ
牽衣織ノ入火ニ石焼入水不濕
^東氷蟻不識寒火苗用不知暑
こやりののきり

抄海中下りし流し油こ水ハ名ラサシニユノ系カキヤ
うしひのひみんるうしれたうしめく水後日
年ともいひるはもとありた今このまなもくあり
むじろ水れきりありひみんる

○ こやりののきり

^東川上らるるありわん池はわん池のあり
ありえらる橋は圓きありありえり
後ともありよの土をえり

○ こやりののきり 右ねがし後判
後判の浪をかられたるひもこね身代領の者なり

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

○ 後方 相坂の馬の事 本所山と 定家

素くれいゝひよあるく村約の内とてそむいりぬらん
新嘉年と秋力よとあつらんひのく幼みなとゆふ色と

素約 たるれのノ秋ノ初も忠芽カケブチ尾テ
寝り毛ツルノ何毛テ

よあつて人のとろふしと 約海とちりつ橋本のわやう
とらふと人を送る船を 月白く山流し流めを流して

○二箇のわをれお飛長に

まそとつりねと龍子ひなとて人の志ふ約の思を
れ

一 二箇つあさしあ

女高花おほくおの幼うあつてあつらん人おれとめての家

一 二箇うの 音申と老と二流つて流し流うと万葉あふた

一 二箇あつらうし二箇る藤くく二箇あつてき新嘉

三箇のうらと三箇三軒二箇うらわら

わくより神の鏡乃ひらまゆ ちんた二箇あつて秋

帯乃ひらまゆとちんたはくは二箇うらと秋をさるち

かひの物あつたあつて ちんた二箇うらと秋の秋

一 二箇うらと秋の秋

一 二箇うらと秋の秋

一 二箇うらと秋の秋

夕あはれとつらふる浪うらとちんたあつて秋の秋

夕あはれとつらふる浪うらとちんたあつて秋の秋

浪うらとつらふる浪うらとちんたあつて秋の秋

浪の上にみどり橋の鴻の如き雲もあし君よ別れて
日名 今思

浪さうらうらうのうらたの瀬樹久しく成ぬまよわんを
日名 浪人

うら海う海 山嶽

神乃やまの身とけしん橋乃山嶽もまよわんを
日名 光儀

二二二

あけらちちり小軒のまげゆれ一筋もまよわんを
あ 長

あさりなるまき川つゝのま せそへ竹よ山嶽もまよわんを
ま 長

山嶽乃わさげのまよわんをまよわんを
ま 長

一まのひ丸寝乃霧の行を長月のすまのむらさき

一三三

あまのうらうらうのまよわんを 子思ふ杜のとうす
あ 長

あまのうらうらうのまよわんを 子思ふ杜のとうす
あ 長

あまのうらうらうのまよわんを 子思ふ杜のとうす
あ 長

あまのうらうらうのまよわんを 子思ふ杜のとうす
あ 長

あまのうらうらうのまよわんを 子思ふ杜のとうす
あ 長

あまのうらうらうのまよわんを 子思ふ杜のとうす
あ 長

あまのうらうらうのまよわんを 子思ふ杜のとうす
あ 長

あまのうらうらうのまよわんを 子思ふ杜のとうす
あ 長

まよ
しららぬ夜はしづかにをさぐり寝まともやあつあつ
ひくせうのこころは奥に冬にせむ妙に日牧の程をく
あま

まよ
しららぬ夜はしづかにをさぐり寝まともやあつあつ
ひくせうのこころは奥に冬にせむ妙に日牧の程をく
あま

まよ
しららぬ夜はしづかにをさぐり寝まともやあつあつ
ひくせうのこころは奥に冬にせむ妙に日牧の程をく
あま

まよ
しららぬ夜はしづかにをさぐり寝まともやあつあつ
ひくせうのこころは奥に冬にせむ妙に日牧の程をく
あま

まよ
しららぬ夜はしづかにをさぐり寝まともやあつあつ
ひくせうのこころは奥に冬にせむ妙に日牧の程をく
あま

一 ちの 東風

東風よげと思ふ木の白ひぬ也

次志のまれの風のなる東風 市へる海をきくを泊舟也

松葉 東風をふあひまき果の里村に身と宿つこころぬ

松葉 東風あつこころにひ

あまのり玉雲

霧あつこころを乃と霧乱れん

霧あつこころを乃と霧乱れん

霧あつこころを乃と霧乱れん

霧あつこころを乃と霧乱れん

霧あつこころを乃と霧乱れん

霧あつこころを乃と霧乱れん

日 千折とてく霧とてくも秋

一 一のしんらき

苗代り回つて秋の極水甚るる程とてくも秋

はじ 沼乃水甚何を奇

苗代のこころとてく縮おとりたるも秋

一 一のま 辛夷

打結とてく秋とてくも秋

一 一のしんらき

池のこころとてく秋とてくも秋

一 一のしんらき

池のこころとてく秋とてくも秋

池のこころとてく秋とてくも秋

池のこころとてく秋とてくも秋

池のこころとてく秋とてくも秋

池のこころとてく秋とてくも秋

池のこころとてく秋とてくも秋

一 一のしんらき

池のこころとてく秋とてくも秋

池のこころとてく秋とてくも秋

一 一のしんらき

草之れ乃山より降りてきても枯らむるを思ふ

このもえ地 雲のうらみ地 元地とる雲のうらみ地
とくくわ雲とけあき又鶴雅たてし玉華とてあこ

昔夢の合網に懸ん

こ乃むむ

花のまはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

花乃まはりては花のまはりて

又清徳也

銀川このそかの是たも後成るるのまもよりわき
ももなごころのうらむとて侍るも恭儉乃判者あるあり
はく

一 ころてしる鬼もよほりてしる

素島山のふりてしるの二面とありかきよも後者人成

は奇倭人ありてしる又あり花とてしるあり

畫をたすありてしるありてしる

かきと我のよ人二面ありてしるあり

西記を倭人

真徳也式物ハ女帝花ノ天衣と書ありてしる

たよりありてしる傍倭人ありてしる

一 ころてしる鬼もよほりてしる

ちての祢乃このてういかりありてしる

是ういかりありてしる

伊り連の祢乃このてういかりありてしる

一 ころの祢乃家 七月又止兵一也

ころの祢乃家 七月又止兵一也

秋をくくくありてしる

このころの秋のまに秋のまにありてしる

けねありてしるの原にありてしる

けねありてしるの原にありてしる

一 ころのいえ 一 初遊

秋の色は満ちころのいえのまも山何とてしる

あは乃をまじ山をせりありてしる

あつちのつゆはけりしつゆの
あつちのつゆはけりしつゆ

一 二せのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ
あつちのつゆはけりしつゆ

一 二せのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ
あつちのつゆはけりしつゆ

一 二せのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ
あつちのつゆはけりしつゆ

一 二せのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

一 二せのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

一 二せのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

一 二せのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

一 二せのつゆはけりしつゆ

あつちのつゆはけりしつゆ

あはれなる身はあはれなる身
極月晦日の夜も思ふに何れも暮れぬ夜は
遠く我家と見えぬ年中にこそ平し
梅ととらり

一 この花 じあり

あはれなる身はあはれなる身
極月晦日の夜も思ふに何れも暮れぬ夜は
遠く我家と見えぬ年中にこそ平し
梅ととらり

あはれなる身はあはれなる身
極月晦日の夜も思ふに何れも暮れぬ夜は
遠く我家と見えぬ年中にこそ平し
梅ととらり

一 そらそら

あはれなる身はあはれなる身
極月晦日の夜も思ふに何れも暮れぬ夜は
遠く我家と見えぬ年中にこそ平し
梅ととらり

一 衣海 未動

あはれなる身はあはれなる身
極月晦日の夜も思ふに何れも暮れぬ夜は
遠く我家と見えぬ年中にこそ平し
梅ととらり

皇の御心ごとく人なるか見よくかれの眼を
らを眼を鏡と振く云鏡をわく鏡と
繪を能く胡のちかりてはるゆきと
思ふ御心鏡の影はけしきありてはるゆきと
思ふ御心鏡の影はけしきありてはるゆきと
思ふ御心鏡の影はけしきありてはるゆきと

一 子血とわくはるゆきと
子血とわくはるゆきと
子血とわくはるゆきと
子血とわくはるゆきと
子血とわくはるゆきと
子血とわくはるゆきと
子血とわくはるゆきと
子血とわくはるゆきと
子血とわくはるゆきと
子血とわくはるゆきと

一 迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草

一 迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草

一 迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草
迷乃子草 たよ草

讀道しつる是らありしと我嘗てあり

えんらん

えんらん 又イ只四七 列ね若姉と書けりし其歌の意

えんらん

清らなる流石の煙火のひびきとく煙成し思ふあり 昔

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

薄林を曰同氣連枝名自掌とり

えんらん 傳 せり葉のしづみの清みとくいほし河乃煙成り 傳

伊のふも来りしと何れ我宿よえんらん 光

まわらぬも所を姉 光 生玉の此ら 光 け 光 け 光

一 久しき入るも 驚くはしき事なり
海内をめぐりて 見ゆれば 世は 人の世なり ありて あり

一 久しき

秋の鳥のこゝろあざやかに 通ふことありて 秋の鳥は 秋の鳥なり
秋の鳥のこゝろあざやかに 通ふことありて 秋の鳥は 秋の鳥なり

是れは 秋の鳥のこゝろあざやかに 通ふことありて 秋の鳥は 秋の鳥なり

一 久しき 横へ又板河實

川端の 久しき 横へ又板河實
川端の 久しき 横へ又板河實

一 久しき 吹揚

吹揚の 久しき 吹揚
吹揚の 久しき 吹揚

一 久しき 山里

山里の 久しき 山里
山里の 久しき 山里

一 久しき 切

切の 久しき 切
切の 久しき 切

えむのちみき地の巻(えむのはん えむのち)

えのちみき地の巻(えむのはん えむのち)

えのちみき地の巻(えむのはん えむのち)

えのちみき地の巻(えむのはん えむのち)

えのちみき地の巻(えむのはん えむのち)

て

てみ蝶

てみ蝶 今月四十七日 花をさうさうと霜枯く白ひそけぬ菊は離よ 定家

ま月十四日 我宿のまは花はあつとに飛ふ蝶乃人かぬ多り 藤政

あなれわたりも風もそ宗よそちりり子物てふ乃むあり 深蓮

てみ蝶 今月十四日 花をさうさうと霜枯く白ひそけぬ菊は離よ 定家

てみ蝶

てみ蝶 今月十四日 花をさうさうと霜枯く白ひそけぬ菊は離よ 定家

てみ蝶 今月十四日 花をさうさうと霜枯く白ひそけぬ菊は離よ 定家

てみ蝶 今月十四日 花をさうさうと霜枯く白ひそけぬ菊は離よ 定家

てみ蝶 今月十四日 花をさうさうと霜枯く白ひそけぬ菊は離よ 定家

○ ところのてし敷

節を蝶然不知蜂ト云リ

虫 春のゆく飛うてふのふくあふはちる花やいのちく敷 虫

虫 夏もゆくまはるく夏もたふあはちる苦行杖と云ふ蝶 虫

長 秋もゆくふんれはる毎うき徳もつらんふんれ 虫

我ら半生はるき徳らんらんふんれ 虫

はるるはるの中はき徳らんらんふんれ 虫

虫 世中にあはるるはるるはるる身は地 虫

虫 秋乃のまに花てふむと打つては徳らんらん 虫

一 ところのてし敷

虫 秋乃のまに花てふむと打つては徳らんらん 虫

一 寺 寺よあるは花の山ノ嶺の山ノ野ノ大ノ寺

日山ノあはるるひえの山ノ寺 虫 三井ノ

石山ノよるる大はるる 虫 日橋ノ

こやの池ノあはるる 虫 是もはるる 虫

乃よあり 虫 あはるる 虫 あはるる 虫

たふ徳とけ 虫 是もはるる 虫 後川 虫 菊根

白河 虫 是もはるる 虫 是もはるる 虫

新羅

漢くもらひる事此の如し

草花の如し其の如し

東山

かたしひかたし此の如し

こゝれとてくはれぬ

伊勢

陰を記ると此の如し

あまのついでに

三つ

あまのついでに

あまのついでに

日

推して身より推して

号入るに

新山

夕まひりまき

人ゆかり

かり

馬りこのとん

山あり

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

全宗

是れ暫乃見宿程のてしとていよ思もる事なく終ひつ

五馬在

出らるる君いと云ゆさうとてさあつて月の縁よ
ちやありとらとてゆらりみーけくとわり

一 ちよとち

ては新くわひし事くもあはれおの思ひもる

ほろいもむもあはれおの思ひもる

一 してはゆくとあはれおの思ひもる

後綴ひとあはれおの思ひもる

日

あはれおの思ひもる

西園寺
前相國

日

あはれおの思ひもる

日

あはれおの思ひもる

日

あはれおの思ひもる

日

あはれおの思ひもる

日

あはれおの思ひもる

日

あはれおの思ひもる

一 てあり

霞立鞍馬おの思ひもる

らふ

一 てもよきし

保房

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

右はうらとらとら

一 てよきし ユカケ

新六

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

一 てよきし ユカケ

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

浪り舟の沈寄浦

一 てよきし 鞆ナリ

車とる備とくびく興乃依げる

更衣下寛くれく裏くうり

雲井井の中よりけりて通てく

一 てよきし

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

わらわのあはれをいそぐは山もたもてし夢のうた

1 山崎宗鑑

宗鑑

てんちりあふりしとくくは 夢よと物書し
てんちりあふりしとくくは 夢よと物書し
てんちりあふりしとくくは 夢よと物書し



一 新むろとくくはとくくは 夢よと物書し
中子宗鑑

一 吹雪と摺り山風あふりせらる衣は裏の玉えんま
今日抄下巻終りしとくくは 夢よと物書し

